学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
電話03（3986）0221内線2607
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　原俊太郎
年間500円

第36回大学祭開かれる

皆が楽しめる大学祭へ

11月3日から6日までの4日間にわたり、第36回学習院大学大学祭が開催された。今回も来訪者数は2万人を超え、盛況ぶりがうかがえる。年に一度のイベントに、学内は今年一番の熱気に包まれた。

（左上）来訪者を迎え入れるジグソーパズル（左下）行列ができ、賑わいを見せる出店
（右）大雨に見舞われながらも、情熱的な演奏を披露し、観衆を魅了した出演者たち

年を重ねるごとに姿を変える本学の大学祭。今年のキャッチフレーズは、「LOVE・目白博」だ。これには、来訪者に大学祭を楽しんでもらうとともに、目白のよさを知ってほしいという大学祭実行委員会（以下、実委）スタッフ全員の思いが込められている。このキャッチフレーズのもと、夏から計画的に準備が進められてきた。

そうして迎えた大学祭。2日の前夜祭から天気にも恵まれ、好調なスタートを切る。連日、学内は大勢の来訪者で賑わい、今年も予定されていた企画はすべて行われた。

ただし、そのすべてが円滑に進んだとはいえないようだ。例えば、後夜祭は30分遅れで開始された。これは、必要な機材の運搬が大幅に遅れたことによるという。また、機材を貸し出す参加団体と実委との連絡が十分ではなかった。今後は実委と参加団体の双方が、今まで以上に連携を強めていくべきだろう。そして、不測の事態に備え、ゆとりある時間設定をする必要もありそうだ。

このようなことに限らず、大学祭は何が起こるか分からない。だが、あらかじめ予測できることも多々あるはずだ。いずれの場合にしても、冷静で柔軟な対応が求められる。

前夜祭に引き続き、3日間は晴天が続いた。しかし最終日は、悪天候に見舞われることに。そのため、後夜祭はステージにテントを設置して行われた。「当日は激しい雨の中で行われ、非常に残念です。けれども雨は、大学祭の閉幕に哀愁を漂わせてくれたように感じました」と、実委の橋塚塁委員長(政3)は振り返る。雨も後夜祭を盛り上げる要素の一つとなったようだ。

この4日間で、のべ20595人が訪れたという。多くの来訪者が企画や展示、出店などを楽しみ、大学祭を活気づけた。こうして今年も目立った事故はなく、無事に終了。橋塚委員長は、「来年も最大限の努力を惜しまず、さらなる進化を目指していってほしいです」と話す。来訪者が楽しめる大学祭とは何か。それを追求しながら、来年も大学祭を創り上げていってくれることだろう。

（2、3面に特集記事）

永田学長、2期目の就任

永田良昭学長の任期満了に伴い、次期学長選挙が行われた。この選挙は、学長選任規程及び、学長選挙管理委員会規程によるものである。7月5日に行われた第2次選挙の結果、次期学長に永田現学長が再選された。任期は、再選のため、11月11日より2年間だ。

学長より再任の挨拶

「本学は、新たな工夫を生み出し、仕事の質を高め、広い視野と関心を持って、その仕事を遂行できるための基礎を備えた人材を世に送り出そうとしています。本学は、この教育理念に基づいたプログラムを担うにふさわしい豊富な人材を擁していると言っていいでしょう。

近年、このプログラムの一環として、法科大学院を開設しました。さらに政治学科に、学部3年終了時点で学士号を取得し、政治学研究科へ進学するという選抜コースを設けました。このコースは、公共政策立案やジャーナリストなどとして活躍すべき人材の育成を目指したものです。そして、一体となる政治学研究科のカリキュラムを大幅に改定しました。また理学部では、21世紀の自然科学の先端分野として期待される、生命科学科設置の構想を練っております。その他の学科、大学院専攻の改編についても、具体的に検討されています。

基本は、奥行きと視野の広い教養教育と、学問分野の基礎教育をおろそかにしないことです。その上で、時代の要請に応えられる学生を世に送り出すためのプログラムを用意しているのが本学であり、将来への展望でもあります」

永田良昭学長

PROFILE

永田良昭（ながた・よしあき）

京都大学大学院文学研究科博士課程単位修得後退学。日本国有鉄道、京都大、大阪府立女子大を経て、1973年、本学文学部助教授に就任。その後、学生部長、文学部長、大学院人文科学研究科委員長などの要職を歴任し、01年より現職。

好期の到来か

就職状況中間報告

就職部より、今年度の就職状況の中間報告が発表された。今年度の特徴は、企業全体の採用計画枠の拡大が顕著だったことだ。計画枠は昨年度より20%も拡大されたが、これは、間近に迫る団塊世代の大量定年や企業業績の回復が原因と考えられる。このような事情にも支えられ、今年度の就職率は、おおむね好調に推移。そして最終的には、昨年度の就職率である95・1%を若干上回るようだ。

学生が希望した業界は、自動車などのメーカーよりも、例年通り、金融・商社が多かった。また最近は、一般職を派遣などの契約社員に頼る企業が多い。そのため、一般職希望の学生には厳しい状況となった。

景気の回復などにより、本学には1日平均13社からの求人票が届く。それらをもとに就職部では、就職希望者に会社紹介や斡旋をしている。さらに、要望に応じて、履歴書・エントリーシートの書き方や面接についても細かく指導。未内定者の4年生や、3年生は就職部を活用し、円滑な就職活動を進めてほしい。

来年度以降も、計画枠は広がる見込みだ。しかし、いわゆる厳選採用には注意したい。これは、企業が求める基準に達する学生のみを採用する方法で、今後も続くものと思われる。計画枠が拡大するとはいえ、過度な期待はできない。

長南就職部長は、「例年、男女それぞれ一定の業界に人気が集中する傾向がある。しかし、自己分析を十分にした上で、自分の長所を発揮しやすい職業に就くことが望ましい。特定の業界に偏ることなく、幅広い企業研究を行っていただきたい」と話す。また、「進路が決定した学生は、『進路決定届』を至急、就職部に提出してほしい」と述べた。

素朴な疑問

石碑が語る

学習院

秋の昼下がり、久しぶりに学内を散歩していた。図書館前の並木道付近にやってくると、なっ、なんと右手に石が――石というだけあって自らの「意思」でひっそりと佇んでいるではないか。よく見てみるとそれは、「大学開学30周年記念」と刻まれた石碑であった。

これを見た瞬間、ある疑問が頭をよぎる。ほかにも石碑があるとしたら、学習院には一体いくつの石碑があるのだろうか。気になる私は、散歩をやめて早速調べてみた。すると、本院に関する石碑は、先ほどの石碑以外にも8つあることが判明。そのうち学内には「高円宮追頌碑」、戦時中の学徒出陣を伝える「出陣の碑」などの石碑もあるようだ。また学外には、学習院開校の地（神田錦町）や、学習院中等科小金井分校跡地（小金井公園内）などに残されている。

調べることに夢中になり、気づけばもう夕方。せっかくの機会だし、本院の石碑すべてを見てみたい。では今すぐに、と席を立ってふと思い留まる。どんなに目を凝らしても、暗い道中で石を見つけるのは難しいことだろう。石碑探しはひとまずおあずけだなぁ。今日はもう家に帰ろう。（紫）

通算400号記念特集

学習院の歴史が詰まった本紙。そのページを覗いてみませんか？

学習院大学新聞の謎

この特集を読む前に、新聞の上方を見てみよう。すると、201号とも400号とも表示されている。なぜ同じ新聞なのに発行号数が異なるのだろうか、と疑問に思う読者もいるだろう。そこで今、その謎を解き明かそう。

「学習院大学新聞」の発行号数は、201号が正しい。一方の400号とは、本紙の前身である「学習院新聞」からの通算発行号数を意味する。つまり通算としては今号、本紙は大きな節目を迎えたのだ。そこで、これまでに掲載された記事の中から、印象的な記事を紹介することにしよう。

女子大生の要望

学習院新聞第1号（1949年）は、「学習院大学創立」に関する記事が並んだ。その中で注目すべき記事は、「新女子大学生と一問一答」である。大学創立と同時に、女子の入学が認められた本学。この記事では、新たに学生の一員となった女子学生の大学生活に迫った。その一部をぜひご覧いただきたい。

『記者「御入学おめでとうございます。まず皆様がお感じになったことは」

A「教室の汚いのに閉口しました」

C「一般に非衛生なのに驚きました。まるで私達、掃除婦と同義語ね」

一同「うなづく」

記者「それは御気の毒で。では男子学生に関してお気附きの点は御座いますか」

B「教室内では禁煙して頂きたいと思います」

記者「次に皆様が一番御希望なさっていることをお聞かせ下さい」

一同「女子学生の控へ室が欲しいと思っています。雨が降るとお食事する場所もないんですもの」』

現在、彼女らが要望した控え室は学内にはない。だが、これらの会話からうかがえる本学の学生像は、今も根強く残っている。学習院のイメージは、開学当時に形成されたのだろう。

新聞と大学祭

次に、学生にとってのビッグイベント、大学祭と、本紙とのかかわりについてお教えしよう。大学祭特集は、まだ本紙の名称が「学習院新聞」だった頃から毎年掲載している。その歴史は長く、第67号（57年）の四大学合同文化祭からその様子を取り上げてきた。

ただし近年までは、大学祭の意義を問いかけるものや、参加団体の意識の低下に対する批判が多かった。学生運動が盛んだった時勢に、例に漏れず大学に反発していたことがうかがえる。しかし90年代頃から、参加団体の紹介を中心とする、今のスタイルに変わっていったのだ。

大学祭とピラ校

また、当時の学生が大学祭期間中に起こした事件なども、頻繁に取り上げられていた。特に、毎年2、3人以上はいたというピラ校登頂者に関する記事は毎年掲載され、彼らにインタビューまでする始末。だが、今では登頂者にはほとんどお目にかかれない。その理由は第307号（93年）の「ピラ校もお色直し」という記事で知ることができる。

それによると、その年、建設から30年が経ったピラ校の老朽化対策工事が行われた。その際に壁が塗り替えられ、表面が滑りやすくなったということだ。その後、本紙が取り上げた登頂者はわずかに1名。少し寂しい気もするが、登ると始末書を書くハメになるので、変な気を起こさないように。

世紀末の大工事

本学は21世紀に向け、90年代から徐々にその姿を変えていった。最後は、第110号（94年）の「学習院21世紀計画」の特集を紹介する。

「学習院21世紀計画」とは、91年から行われていた長期整備計画のことだ。この記事は、東2号館（法経棟）が完成してから数カ月後に書かれている。

「目的は、法・経済学部の学生の居場所を作ろうということ。（中略）学生のたまり場としてラウンジを、遅くまで勉強したいという人のために自習室を作った。大学なので勉強するのはもちろんだが、寝ていても構わないと思う」

記事中で、当時法学科主任だった津村政孝教授は、東2号館について右記のように語っていた。その言葉通り、現在東2号館は両学部の学生に広く利用されている。

一方で同特集では、トレーニンググルームが建設されないことも取り上げていた。学習院21世紀計画の要綱には、「学生の主体的に取り組む学習活動を重視する」というくだりがある。それにもかかわらず、運動部は黎明会館の数少ない器具でトレーニングをしていたのだ。本紙では、「大学側も、『直接体験を通じて学習する重要な機会』として、クラブ活動を重んじているようだ。（中略）学生の要望を聞き入れ、早急な検討が望まれる」と結んでいる。

結局トレーニンググルームが作られるのは、03年の西2号館完成を待たねばならなかった。今や、運動部以外の学生にもお馴染みのトレーニングルームには、建設までの長い道のりがあったのである。

◇　◇　◇

以上は、50数年に及ぶ本紙の記事のほんの一部である。本紙の歴史には、時代に翻弄され、政治色の強くなった時期もあった。だが、いつの時代でも私たち記者は、学生の視点で情報を発信すべく、試行錯誤しながら全力投球している。

今後ともご愛読、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

学習院大学新聞社

情報特急便

字幕翻訳家　戸田奈津子氏特別講演会
「字幕の中に人生」
講師：戸田奈津子氏
日時：11月26日（土）
　15時半～17時
場所：西5号館B1教室
備考：参加費無料、予約不要

平成17年度大学図書館セミナー
「キャンパスライフと著作権」
～Q&Aで学ぶ
　著作権の"シロ"と"クロ"～
講師：法学科助教授　横山久芳先生
日時：11月29日（火）
　16時半～18時
場所：大学図書館3F　第1コンピュータ閲覧室
対象：大学図書館の利用資格がある方
備考：自由参加

第9回就職セミナー
「知らないと損する就職部HP・資料室・
　個別相談の徹底活用」
講師：就職部／外部講師
日時：12月3日（土）
　13時～（約1時間半）
場所：西5号館B1教室

地下書庫改修工事に伴う
閲覧停止についてのお知らせ

本年12月から来年4月にかけて、北2号館地下書庫の改修工事を行う。そのため、図書並びに資料の出し入れが不可能となり、閲覧業務を停止する。閲覧停止予定期間は以下の通り。

2005年12月1日～2006年4月
（工事終了時）

明窓浄机

私は人付き合いがあまり得意ではない。人を誤解しやすいし、人に誤解されているとよく思い込んでしまう。そのせいで、何であんな言動を取ってしまったのかと後で落ち込む。そのような日は、あまり眠ることもできなかった▼しかし大学生になり、いろいろなものから解放されて、気持ちにも多少の余裕が出てきた。そして多くの人たちと交流する中で、考え方も変わってきている。それは、自分と同じような気持ちを誰もが持っているということ。ごく当たり前のことだが、あまり分かっていなかったようだ。今まではこの点について、考えが足りなかったのだろう▼私は人の言動をすぐ悪く捉えてしまっていた。けれども、それでは相手からも誤解を招く。悪循環に陥るだけなのだ。私はもっと純粋に、人を信じた方がよいと考えるようになった。だからと言って、人が自分を信じてくれるとは限らない。だが、それでも構わないという気持ちも大切だろう。他人に求めるより先に、まず自分が実行しなければ▼もちろん、長年の癖をすぐに変えられるわけではない。うまくいかない時もあるはずだ。今後の大学生活、その後の人生と、まだまだ先は長い。これからも多くの出会いがあるだろう。単なる誤解で出会いを無駄にしてしまうことは、できる限りなくしていきたい。（流）

紙面紹介

2・3　大学祭特集

通算36回を数える大学祭。今年のテーマは「LOVE・目白博」だ。出店、展示など万博さながらに賑わった4日間となった。

4　ボート部男子奮闘

ボート部男子がインカレに出場し、粘り強い戦いを見せた。全国の強豪を相手に善戦。見事8位に入り、入賞を果たした。

小休止

先日、部室に新しいプリンターがやって来た。先代は、日によってインクが濃かったり薄かったり。機械のくせにね。今のところ順調に動いているコイツも、そのうち機嫌を損ね始めるのだろうか。（椿）

第36回大学祭

前・中・後夜祭

中央教室を背に送る至高のひととき

前夜祭

祭りといえばみこし。毎年前夜祭では、各団体が趣向を凝らしたみこしを担ぎ、目白の街を闊歩する。昨年は、あいにくの雨天によりそれが叶わなかった。今年はその分を取り戻す。担ぐ前から、そう決意しているかのような熱気が、みこしを取り囲む人たちからはあふれていた。

今年は計8団体が参加。これらの中には、他の部活と合同で担ぐといった、垣根を越えての参加も目立つ。最初の30秒間PRでは、興奮を抑えきれない代表者の雄たけびが響き、早くも大盛り上がりだ。浮かれすぎてすでに半壊したみこしも。だがみこしの見た目はどうであれ、担ぐことに意義がある。どんなに壊れようが、まったく気にも留めていないようだ。

毎年みこしは、完成度やパフォーマンスなどが優勝の決め手となる。今年はキャンピングクラブの、レイザーラモンHGとリラックマを融合させたみこしが選ばれた。しかし彼らにとっては、楽しく担いだということが、一番の名誉なのかもしれない。

中夜祭

3日目の夜は音楽・ダンス・アトラクションなど。多彩なステージで私たちを楽しませてくれた。

スカイ・サウンド・ジャズ・オーケストラは、学内での評判も高い。それゆえ始まる前から、たくさんの聴衆が待ちわびていた。音合わせが終わり、いよいよ演奏が始まる。誰もが知っている曲が軽快に奏でられ、リズムに合わせて踊りだす観客もいた。

次は応援団チアリーディング部が、ハイレベルな演技を披露する。得意のハイジャンプを笑顔で演じる彼女たちに、目はもう釘づけ。変わってダンスシーンでは、女の子からも「かわいい」との声が上がる。

その後、空手部による火炎瓦割りやブロック割りで、会場はヒートアップする。さらに、実委によるMP3プレイヤーが景品の○×問題や、有志バンドによるアコースティックギターライブが続く。そしてDance Applauseによる女性のみでのセクシーなダンスや、No X－itによるストリート系のダンスなど、内容盛りだくさんの2時間となった。

後夜祭

最終日に催された後夜祭は、悪天候に見舞われる。しかし、今年も大勢集まった観客の前で、5つの音楽系サークルが、熱いライブを繰り広げた。

まずは世界民謡研究会。といっても、演奏する曲はお馴染みの邦楽やパンクなどで、どんな観客も楽しめた。最初の曲、SINGER SONGERの「初花凛々」を始めた時は、雨のせいでまばらだった聴衆も、曲の中盤に差しかかる頃には倍に増えていた。尾崎豊の「15の夜」では、ボーカルがパンツ1枚になって熱唱する場面も。また、舞台に上がり、一緒になって歌う観客もいた。それほど楽しめたステージだったのだ。

それから音楽愛好会、フライングハウス、中南米研究会、軽音楽部と続いていく。どの団体も、幅広いジャンルで選曲をしていて好感が持てた。

これらの団体にとって、後夜祭は重要な位置を占める。これが引退ライブとなる人たちがいるからだ。各団体が、最後には思い出の曲を、全員あるいは引退する3年生だけで合唱した。感極まって思わず涙する人もおり、雨のシャワーの中で感動的なステージとなった。

（山田絵美）

ミスキャンパス

美を競う8人

迷える観客たち

【6日　百周年記念会館】

今年も、広告研究会による「ミスキャンパス学習院」が、大学祭最終日を飾る。観客層は老若男女を問わず、コンテストへの関心の高さがうかがわれた。

コンテストが始まる前から、ミス候補を応援する人たちで会場は熱気に包まれる。ひときわ応援者が多かったのは、外山巳子さん（仏1）。遠くに住む親戚や犬までもが訪れたという。多くの人が今か今かと、まだ見ぬ美女軍団を待ちわびていた。

ゲストのあびる優さんも登場し、盛り上がりが一層高まる中、いよいよウエディングドレス姿のミス候補たちが入場。最終選考まで残った8人が、壇上へと続く花道を進む。美女が続々と現れる様に、観客からはどよめきが巻き起こる。会場すべての人の目が、彼女たちに釘づけとなった。

そんな中、家村英莉さん（英1）をはじめ、彼女たちは緊張の色を隠せない。それは、パンフレットの写真ではうかがい知ることのできない、等身大のミス候補たちの姿。実際の彼女たちは本当に皆、美しいとしか言いようがない。あびるさんは、「皆さんスタイルがいい」、「こんな綺麗な人が8人もいるのを見たことがない」と絶賛する。

その後、私服に着替えるため、ミス候補たちは一旦退場。再入場までの間、あびるさんのトークタイムとなった。あびるさんは、「犬猿の仲」と噂されている杉田かおるさんと、実は仲がよいことを語るなど、プライベートに関することを話す。また途中からは、昨年準ミスの掛貝梨紗さん（化2）も加わり、主役の去ってしまった会場を大いに沸かせてくれた。

そして、お色直しを済ませたミス候補たちが再びステージに登場。その後、映画研究部の制作したプロモーションビデオ（以下、PV）が上映される。PVはそれぞれ多彩で、個性あふれる内容であった。

最初の上映は、嘉納千晴さん（営4）のPV。バドミントンをしたり自転車に乗ったりと、無邪気で明るい自分をアピールする内容だ。また、ウーロン茶の缶にキスをしたりするなど、男心をくすぐる演出が満載。女性のあびるさんをも、「キュンときた」と言わしめた。

そのほかにも、人見薫さん（政3）や森万季さん（法3）のPVが好評を博す。人見さんのPVは、「アジアンビューティー」がテーマで、黒髪が美しい彼女の個性が光る。お似合いのチャイナドレスを着て、一人で中華街を歩く、どこか寂しげな内容。そして最後に、「今度は2人で一緒に来ようね　薫」と、直筆で書かれた手紙のアップで終わる演出には、みな大満足だった。一方、森さんのPVは「青春してる感じ」がテーマ。アイスホッケー部のマネージャーとしての日常の光景が中心だ。選手と一緒にスティックを操るなど、自らアクティブと語る森さんの魅力を引き出した。男性にテーピングする様子は、森さんの優しい素顔が垣間見える。そして一生懸命な姿で部活に打ち込む様子は、見る人すべてに爽やかな印象を与えた。

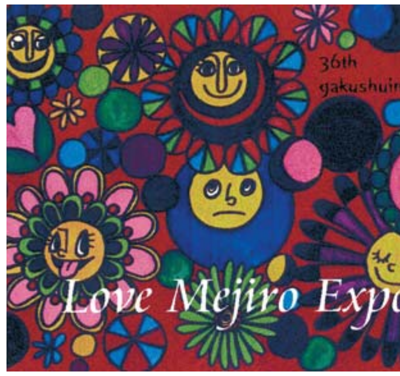
PVの上映が終わった後は、ミス候補によるミニ運動会を開催。昨年に引き続き、借り物競争も行われた。山本理沙子さん（仏1）の連れてきた男性は、ミス候補と手をつなげたのが嬉しかったのか、非常にハイテンション。しかも、「鉄道研究会の展示目当てで（本学大学祭に）来て、当日券で入った」と話し、会場中を爆笑の渦に巻き込んだ。それ以外にもミス候補たちの力になろうと、躍起になる男性陣の姿が目立った。

ミニ運動会も終了すると、刻々と「ミス学習院」の選ばれる瞬間が近づく。ゲストのあびるさんと観客全員による投票が終了。まずミスに先立ち、準ミスが発表される。会場内の緊張が一気に高まる中、名前が呼ばれたのは、「応援に助けられました」という外山さん。スマートでスタイル抜群の彼女は、「素直に嬉しい。感無量です」と率直に語った。彼女の美の秘訣は、笑顔でいることだそうだ。中2から高3まで単身でカナダに留学していたという彼女。あびるさんの要望に答えて「Thank you for everyone」と、得意の英語で感謝の言葉を述べた。

そして、ついにミス発表の時がやって来た。張りつめた空気を破ったのは、「エントリーナンバー1番、嘉納千晴さん！」という声。あびるさんを「キュンとさせた」彼女が、ミスの座を射止めた。見事栄冠に輝いた嘉納さんの受賞後の第一声は、「びっくりしました」。本人も予想外の受賞だったようである。加えてコンテスト終了後、「お誘いがあったので、記念に出ようと思っただけです」と、本紙に語った嘉納さん。また、「女性として素敵な生き方をしたいです。人に優しくできる人ほど謙虚で心の芯が強いと思います。謙虚に生きたいですね」と、これからの目標について話してくれた。

「今年はハイレベル」と、広告研究会も言う今回のミスコン。内面も外面も洗練されたミスの美しさは、折り紙付きだ。

（植木太）



みんなであいのり！

M-iライブ

Maika（左）はその透き通る声で、観客を魅了した

【3日　百周年記念会館】

今年のゲストライブは、3人組のガールズバンドMi（エムアイ）。テレビ番組『あいのり』の主題歌『未来の地図』でデビューし、一躍有名になった。ボーカルのMaikaは高校生。キーボードのAya、ベースのYuriは大学生という若い3人。そしてYuriは本学の4年生で、軽音楽部のOGなのだ。

照明があがり、Miの3人が元気な挨拶で登場すると、観客は総立ちで迎えた。最初の曲はヒットソング『未来の地図』。Maikaの、綺麗で透き通る歌声が会場に響き渡る。軽快なパフォーマンスを見せながら演奏し、「盛り上がっていこうぜー！」と声をかけ、会場のボルテージを上げていく。バックには花模様などの美しい映像が映し出され、3人のはつらつとした姿とマッチして、観客を魅了していた。

そして演奏の合間のトークでは、観客を飽きさせない。Ayaは、自身が通う大学でも学園祭が開かれているにもかかわらず、本学にやって来たという。「出店をいろいろ見て回ったけど、誰も声かけてくれないの。気づいてよ！」と茶化して見せた。

続いては、10月19日に発売されたばかりのファーストアルバム『M☆1』からの選曲。アップテンポな曲やしっとりとしたバラードなど、様々な曲を歌い上げていく。また、あいのりつながりでEvery Little Thingの『fragile』や、I WiSHの『明日への扉』のMi風アレンジを披露した。

締めは最新シングルの『サンセット』。これは切ない失恋の曲で、「最後に心を込めて歌います」と歌い始めた。その、心に響く歌詞と歌声で観客を引き込む。しんみりとした雰囲気が会場を包み、観客は静かに聴き入った。

最後の曲が終わり、Miの3人がステージから去っても、鳴り止まない拍手。それが段々とアンコールの手拍子に変わっていく。すると観客の期待に応え、「アンコールありがとー！」と3人が再登場。1曲目、2曲目とバラードを歌い、最後は再び『未来の地図』を熱唱。会場はまさしく一体となり、観客は大きな手拍子で彼女たちの演奏に合わせる。そして拍手喝采の中でライブは幕を閉じた。

普段は厳かな雰囲気を持つ百周年記念会館。だが、大学祭のライブの時はまるで別空間のようになる。本学の学生なら、一度は百周年記念会館でのライブを体験してみてはどうだろうか。

（今村隆介）

音楽

心揺さぶる音空間

軽音楽部

魂の込もった歌声で観客をとりこに

【全日　輔仁会館3階】

輔仁会館の階段を一段一段上るにつれ、バンド演奏の音が近づいてくる。暗幕の張られた3階ホールに足を踏み入れれば、そこはもうライブハウスだ。

軽音楽部の音楽喫茶は、1日に約20組のバンドが入れ替わり立ち代りで演奏を行う。演奏する曲のジャンルは、誰もが耳にするJポップからロック、パンク、プログレ、グランジ、テクノ、ジャズ、ブルースまで、邦楽洋楽問わず多岐に及んでいる。一つのバンドの演奏時間は20～40分。曲数にして4～8曲くらいだ。

輔仁会館の壁の垂れ幕には、演奏される楽曲の、元のアーティスト名とライブの時間が記されている。そのため、自分の好きなジャンルの楽曲を聴きにいけた。

入り口でパンフレットをもらい、バーカウンターでドリンクや軽食を注文。それを待つ間にも、ステージからはバンドの熱気が伝わってくる。ドリンクを手にしてステージ前の席に着き、さあライブに聴き入ろう。バンドの演奏中は、アンプから流れる大音量が床を強く震わせ、音の振動を文字通り全身で感じる。

猛々しくも乱れを見せないドラムとベースライン。それに乗って、ギターリフの刻みやキーボードの多彩な音色、それに力強いボーカルの歌声がどこまでも響く。そうした音の一体感からだろうか、どんなに激しい曲であっても皆、不思議と心地よい。

曲の合間には、軽妙な口調のMCで場の空気を盛り上げる。曲目の解説や、バンド結成に至るいきさつ。それに、練習中に起こったハプニングまで。内輪向けの話題にならないよう配慮した語り方が、好印象だ。

また、演奏中のパフォーマンスも見逃せない。ギタリストやベーシストが頭を振り乱して早弾きを披露し、ドラマーは曲の締めに壮絶なアドリブを魅せる。

ライブのクライマックス、観客たちは曲に合わせて手拍子を打ち、バンドと一つになる。演奏後の拍手は、楽器からの轟音にも負けないほどの熱いものであった。

どのバンドも日頃の練習で磨きあげた技術で、確かな演奏を見せる。ドリンク片手にライブを楽しめるので、その居心地のよさに、思わず何時間も聴き入ってしまっていた。（小倉正也）

アトラクション

黒バラ、咲き誇る

Mr.レディコンテスト

ミス学習院より美しく？

【5日　中央教室前　特設ステージ】

昨年から始まったMr.レディコンテスト。昨年の評判が広まったのか、ステージ前には大勢の観客が集まる。今回女装で壇上に登ったのは5人。各自がパフォーマンスを披露し、観客の投票で大賞を決定する。

大崎智司さん（哲1）はキーボードでショパンを演奏。不自然に垂れた前髪に、方々からは失笑が。小林昌平さん（仏3）はパンクの格好で中島美嘉の替え歌を熱唱。最後にはスカートを下ろし、観客はもとより他の出場者たちをも絶句させた。ギターの弾き語りをした小佐野泰明さん（済2）は、衣装を自腹で準備する気合の入りようだった。

奇抜な格好の目立つ出場者たち。そんな中、長谷川怜さん（史1）は、女性も思わず溜め息を漏らすほどの美貌で準グランプリを獲得。「女装した自分の姿をまだ見てません。だって、クセになったら困るでしょ？」。そう微笑む長谷川さんに、大きなどよめきが起こった。

そして、並み居る美女たちを制してグランプリを手にしたのは、GSSの冨澤佳祐さん（営1）。冨澤さんは高校生の頃から女装コンテストで優勝しているベテランで、その仕草は女子高生のようだ。「元気いっぱいの萌えっ娘」をキャッチフレーズに、松浦亜弥の『ね～え？』でダンスを披露。歌詞に合わせたコミカルな動きで、多くの観客の心を鷲掴みにした。「ダンスは、友達に習って1週間みっちり練習したんです。インパクトの勝利でした」と、賞品の電子ダーツを手に冨澤さんは語る。「来年は、後輩に出場させようと思います。うちの部の恒例にしたいですね」。冨澤さんの笑顔は、まさに美女の輝きそのものであった。

（小倉正也）

幽玄な世界への扉

薪能

光る刃が暗闇に映える

【3日　中央教室前　特設ステージ】

夜空の下、灯された炎が舞台を照らし出す。薪の弾ける音が響き、周りの喧騒を忘れさせる。その空間は、能の世界へと観客を誘う。

能楽研究会と観世会部の共催で行われる薪能。ここでは金春流と宝生流、そして観世流の3流派を一つの同じステージで楽しめる。

まず披露されたのが、金春流の公演。なかでも印象的だったのは、「土蜘」という演目だ。これは、源頼光と蜘蛛との戦いを描いた物語である。しかし、ただ争う様を舞うだけではない。蜘蛛役の演者の手からは、実際に白い糸が放たれる。一方の頼光も刀を振るい、舞台上で激しい戦いを繰り広げるのだ。糸が宙に弧を描く様子に、観客からは感嘆の声が上がっていた。

続く観世流公演で演じられたのは「鞍馬天狗」だ。山伏に扮した天狗が、牛若丸に兵法を授けるというこの演目。それを見事に表現した演者の一挙手一投足に、観客の目は惹きつけられた。

そして舞台は、宝生流の舞へと移っていく。トリを飾ったのは、観世流でも舞われた「天鼓」。帝は少年から太鼓を奪うが、それを鳴らすことができない。そこで少年の父を呼ぶと太鼓が鳴り出し、少年の霊が現れるというあらすじだ。宝生流の特徴は、華麗な謡を重視した、重厚な芸風といわれている。「天鼓」では、観世流との対比により、その特徴をさらに見て取ることができた。

能という伝統芸能を、肌で感じることが出来た貴重なひととき。かがり火に照らし出された舞台上には、舞の情景が映し出されるようであった。（新原大輔）

講演会&トークショー

世界9周の外交

町村前外相　時局講演

前外相としての体験を語る町村氏

【6日　西2－201】

国際政治研究会が開催する、毎年恒例の「時局講演」。今年の講師は、前外務大臣である町村信孝氏だ。

講演ではまず、大臣時代のスケジュールを紹介。外務大臣は出席しなければならない委員会が多く、外交に費やせる時間が少ないという問題点を挙げた。町村氏が会った外国の要人は400人以上、移動距離を合計すると、実に地球9周分にもあたるという。なかには1泊5日という出張もあったそうだ。「外務大臣に大事なものは、何よりもまず体力。頭はそこそこでいい」と言う氏の言葉に、会場からは笑いが起こった。

「小泉内閣で何が変わったか」という議題では、派閥の意向を受けない組閣により、派閥の影響力を弱めたことをクローズアップ。そして一番の成果は、2回の北朝鮮訪問で、拉致被害者の帰国を導いたことだろうと語った。

話題は国連安保理の改革問題に移る。「G4のことをギャング4と揶揄する人もいたが、ジェントルマン4ですよと教えてあげた」という話で、再び聴衆の笑いを誘った。「今回の国連改革は、壮大な失敗だったとマスコミは批判するが、ベースはでき上がったと思う。これから時間をかけて常任理事国入りを目指していけばいい」と述べた。

最後の質問タイムでは、「世間の一部でマッチーと呼ぶ人もいますが、このあだ名をどう思いますか」という質問をする人も。町村氏は苦笑いしながらも、「よいあだ名だと思います」と答えた。

町村氏の講演は、時折交えるジョークで聴衆を飽きさせない。とっさの質問にも冷静な対応で切り返し、氏の高い知性と気さくな人柄を感じさせた。政治家としての今後の活躍を期待したい。

（今村隆介）

次代を担う若者へ

小野田寛郎　講演会

穏やかな語り口の小野田氏

【6日　西5－B1】

満員の聴衆の前に、一人の男性が現れる。その瞬間、場内は拍手に包まれた。壇上に立ったその人こそ、小野田寛郎氏だ。

小野田氏は、第二次世界大戦時にフィリピンのルバング島に派遣された。その後、終戦を迎えたことを知らずに戦闘を続行。1974年、日本に帰還するまでの実に30年間、戦い続けたことで知られている。今年、ドラマにもなったことで、若い世代への認知度も飛躍的に高まった人物だ。

そんな小野田氏は、ジャングルで生き延びた経験から、実に多くのことを学んだという。その一つが、社会の恩恵を実感したことだ。「ある時、大切に使っていた針が折れてしまったので、自分たちで作ろうとしました。しかし、小さな針を作るのは難しく、一日かけて数本作るのがやっとだったんです」。そんな時、部下の一人が、「ダメなもんですね」と呟いたという。その言葉に、小野田氏も自分たちの無力さを痛感した。「最近では、自分はもう一人前だと考える人が大勢います。しかし、『一人前の自分』は、社会の恩恵を受けて成り立っている、ということを忘れてはいけません」。島での生活が、それを気づかせてくれた。

小野田氏は今、「小野田自然塾」で、自立した青少年の育成に尽力している。過去の経験を活かし、健全な次世代を育てることが目標だという。

最後に氏は、生きていく上で「意志」を持つことの大切さを説いた。「30年間生き抜けたのは、絶対に生き残るという強い意志を持っていたからです」。厳しい生活を送ってきた人間の言葉だからこそ、その一言はとても重い。

小野田氏は講演中、終始にこやかに話していた。その表情は、過酷な体験をしてきた人物とは思えない、とても優しいものだった。波乱に満ちた半生を送った氏の話は、聴衆の胸に確かに刻まれたことだろう。

（新原大輔）

かわいさ満載！

千秋トークショー

母となってもかわいらしい千秋さん

【5日　西5－B1】

学祭3日目のこの日、「千秋　トークショー」が行われた。千秋さんの登場を今か今かと待つ観客で会場は賑わう。千秋さんといえば、バラエティーなどで幅広く活躍している印象が強い。しかし、今や一児の母である千秋さんは、子供服のデザインを手掛けるなど、様々な仕事をしている。そんな多才な彼女が登場すると、大きな拍手と「かわいい」という声が湧き上がった。

テレビと変わらぬ姿で、かわいらしい挨拶をした後、本学学祭の印象を話してくれた。豚キムチチャーハンなどを食べたりして、学祭を満喫していると聞くと、会場からは喜びの声が上がる。近況について尋ねられると、前日に開かれたやっくん（薬丸裕英さん）主催の千秋さんのバースデーパーティーや、芸能界での交友関係の話を披露してくれた。なかでも、共通の友人を通じて知り合ったという、青木さやかさんの話に観客は興味津々。「さやとは、自宅の玄関で初めて会ったんですよ」という一言に、会場は驚きと笑いの渦に包まれる。その後も千秋さんは、デビュー当時や短大時代の思い出などを語ってくれた。

母になる前となった後とでは、仕事の内容も少し変わったという。以前はテレビなど、外での仕事が中心だった。しかし最近は、雑誌の連載や子供服のデザインなど、家でできる仕事を始めたそうだ。子どもの様子を見ながらできる仕事もしたい、と千秋さんは言う。

千秋さんは以前から洋服の販売をしていた。しかし母親となり、市販の子供服の値段やデザイン、機能性などに不満を持つ。そこにデザインの依頼が舞い込み、本格的にデザイナーとして活動し始めた。デザインをするときには、かわいいものにするほかにも、気をつける点があるという。それは素材だ。丈夫なものや、縫い目で赤ちゃんの皮膚を傷つけたりしないものを選んでいるという。常に母親の目線からの洋服作りを心掛けている様子がうかがえる。

ところで、阪神ファンでも有名な千秋さん。今年の阪神について質問されると、「日本シリーズで負けちゃったから、弱っちいチームみたいじゃん」と少し不満げ。だが、「リーグ戦まではよかったから、これから練習すれば大丈夫」と、早くも来年の活躍に期待しているようだ。

質問の後には、千秋さんとのじゃんけん大会も行われた。そして最後に、少し遅めの誕生日を祝い、観客から歌と花束のプレゼントが。突然の出来事に驚きつつも喜ぶ千秋さん。会場は和やかな雰囲気のまま、トークショーは終了した。

短い時間ではあったが、千秋さんの様々なことを聞くことができた今回のトークショー。千秋さんと思いを共有でき、観客にとってよい思い出となったことだろう。

（掛川千尋）

研究・舞台

大学祭での発表に向け、連日準備を重ねていた部会は数多い。訪れる学内外のたくさんの人々に、日頃の活動内容をアピールする機会だからだ。

パネルや模造紙を使った分かりやすい展示は、専門知識のない人たちも大いに楽しませた。また大学祭での舞台は、日々の練習や稽古の成果を披露する絶好の場となったようだ。ここでは、数ある発表の中から、史学部と地学研究会の展示、そして国劇部による歌舞伎の舞台を紹介しよう。

史学部

【全日　西1－310・316】

普段は主に語学の授業で使う教室が、歴史のロマンを感じさせる場へと変わる。3班に分かれている史学部は、それぞれが異なるテーマに基づいて展示を行った。

まずは歴史班。「天下統一への道～織豊から徳川へ～」と題し、戦国時代末期から豊臣家滅亡までを通史的に説明した。なかでも観客を満足させたのは、「関ヶ原の戦い」の模型である。実際に等高線を測り、1カ月もの期間をかけた部員手作りの模型は、迫力満点だった。

世界史班の展示は、「ドイツ統一への道」がテーマ。これは今年が、「日本におけるドイツ年」にあたるため、選ばれたそうだ。来年ワールドカップが開かれることもあり、今ドイツへの注目度は高い。だが、ドイツ近代史が一般的に馴染みが薄いことを考慮し、分かりやすく図表を使って説明していた。

最後に紹介するのは考古班の展示。「考古」と聞くと、古代のみを研究している印象を受ける。しかし、考古班の取り上げた時代は中世。考古班が夏休みに訪れた、平泉と縁の深い源義経の生涯が主題だ。現在、大河ドラマで話題となっている義経の人物像をうかがい知れる、印象的な展示であった。

史学部にとって大学祭は、後期最大のイベントだという。その言葉通り、史学部の総力を挙げた展示は、充実した時間を味わわせてくれた。

（植木太）

地学研究会

【全日　北1－404】

地学の研究対象は多岐にわたる。しかしこの展示会では、天文・気象・地質の3部門に分かれており、来場者の興味に合わせて会場を回ることができた。

展示会場に入ると、まず天文部門の神秘的な写真の数々に目を奪われる。日食や月食、そして彗星――。「天体ショー」と銘打たれたそれらの展示に、自然と興味が湧き起こる。添えられた説明も簡潔で、難解になりがちなこの分野の魅力を明快に伝えた。

壁に貼られた研究の成果を、淡々と読み進めるのが展示会の常である。だが気象部門では様々な趣向が見られた。来場者が、「入道雲から台風に変わる過程」を実験する試みや、部員が雲を作る企画も実施。また、360度どこからでも見られる写真の展示もあり、それらの工夫が気象への理解を後押しした。

「鉱物」と聞くと堅苦しいが、「宝石」と言い換えると印象も変わる。地質部門では、「誕生石」をテーマに鉱物の魅力に迫った。そこでは誕生石の一つであるオパールと、アンモナイトの化石が融合した「アンモライト」が紹介され、人目を引く。また、宝石の主な原産地を、手作りの立体的な世界地図で紹介。女性を中心に人気を集めていた。

どの展示も片手間ではなく、部員の真剣さが肌で伝わるものばかり。内容は変わっても、来年も素晴らしい発表を見せてくれることだろう。

（原泰一郎）

心中を決意する忠兵衛と梅川

富士山で迎えた夜明け

部員の力で作り上げた戦国古地図

国劇部

【3日　富士見ホール】

国劇部が練習の成果を披露する場、それが試演会。今回、人気演目である「恋飛脚大和往来　封印切の場」を、1年生が熱演した。

飛脚屋の忠兵衛は、遊女梅川の身請けの手付け金は払ったが、残りの工面ができない。そんな時、友人の八右衛門が梅川を身請けしようとする。武家屋敷に届ける金を懐に入れたまま、忠兵衛と梅川は逢瀬を楽しむ。そこへ八右衛門が身請け金を持ってくる。しかし主人は、横柄な八右衛門ではなく、忠兵衛に梅川を身請けさせると言うので、八右衛門は忠兵衛の悪口を言う。それに我慢できなくなった忠兵衛は、座敷から飛び出る。八右衛門は金のない忠兵衛を馬鹿にして、小判を見せびらかす。耐えかねた忠兵衛は、届けるはずの金の封を切り、身請け金にしてしまう。公金横領は死罪。2人は心中を決意し、忠兵衛の故郷へと赴く。

色町の哀愁と登場人物の内面を、この物語は見事に表現している。忠兵衛役の千野裕子さん（日1）は、「自分と性格の違う主人公の役作りに苦労しました」と語ってくれた。本来歌舞伎は女人禁制の世界。しかし、部活でならば女子も歌舞伎を演じることができる。重厚感あふれる動きと、台詞からにじみ出る男女の心情の細やかさ。さらに女形の艶やかな演技は圧巻だ。歌舞伎は堅苦しいだけでなく、どこか笑えるところもあるもの。優美なこの舞台は、観衆にそのことを教えてくれた。

（掛川千尋）

構成　原　泰一郎
　　　山田　絵美
レイアウト
　　　原　泰一郎
取材　今村　隆介
　　　植木　太
　　　小倉　正也
　　　掛川　千尋
　　　新原　大輔
　　　原　泰一郎
　　　山田　絵美
撮影　石崎知世子
　　　佐藤　貴裕
　　　嶋先　伸人
　　　中谷　美穂
　　　原　泰一郎
　　　平峯さとみ
　　　山崎　晃志

CAMPUS GUIDE

●シェイクスピア・ドラマ・ソサエティ
「2005年度秋公演『夏の夜の夢』」
日時：11月26日（土）13時～　18時～　27日（日）13時～
場所：富士見会館ホール
料金：500円
内容：人間と妖精による一夜の恋の大騒動を描きます。

●フランス会部
「フランス会部本公演」
日時：12月2日（金）・3日（土）
場所：富士見会館ホール
料金：無料
内容：笑いアリ、涙アリ、モハメド・アリです。

●輔仁会雑誌編集委員会
「第229号　輔仁会雑誌配布」
日時：12月上旬
場所：西門付近
料金：無料
内容：学習院色を強くしました。

●落語研究会
「秋のめじろ寄席」
日時：11月24日（木）18時～
場所：豊島区民センター　6階ホール
料金：無料
内容：落語・三味線・4年生の引退披露口上ありです。

●茶道部
「冬季茶会」
日時：12月11日（日）10時～
場所：新宿御苑『楽羽亭』
料金：1500円
内容：日本の伝統文化に触れてみませんか？　おいしいお茶とお菓子をご用意してお待ちしております。

●應援團吹奏楽部
「第8回定期演奏会」
日時：12月23日（金）15時～
場所：江戸川区総合文化センター
料金：500円
内容：2005年コンクール課題曲『春風』・「ハウルの動く城」より他

7年ぶりのインカレ入賞

ボート部男子

水上を切り裂く

10月6日から9日にかけて、戸田公園において全日本大学選手権大会（インカレ）が開催された。ここ数年、成績が振るわなかった本学だが、今大会では、男子舵手付きペアという種目で8位に入賞、全国という大舞台で持てる力を出し切り、鮮やかに復活を遂げた。

和田克之選手（商4）、島田義輔選手（法4）、長田弘也選手（物2）の3人が快挙を達成した。ボート部男子が、7年ぶりのインカレ入賞を果たしたのだ。

3人が出場したのは昨年までは舵手付きペアの二つの種目だけだ。和田選手と島田選手が中心となり、舵手として声が力強く響く、2人の手に自然と力がこもる。ところが、相手も簡単には落ちない。百人の意思がぶつかり合い、激しいヘッドトップとなる。そんな中、100メートル地点でついにボートが前出た、一目一瞭、勝負がかかった。本学の相手は芝浦工業大。優勝がかかった大事な一戦だ。

試合は8人が各コース、弐立、参立、四立、五立、六立、七立、八立と分かれ、500メートルまでは5チーム中4位。そのような状況でも3人は冷静だった。「厳しい練習をしてきたのだ」、後半には目指すありかたを思い出したと話す。

そのままトップ、ゴールまでは敗したものの、5位を制する。

これが勢いに乗った本学ボートを支配し試合を優位に展開していく。前半9分には、スタンドからの吉田佑司選手（商2）が相手ディフェンスを破る。後足を活かし、インゴールへ一直線に走りトライ。ゴールキックはポール脇に反れたが、5点を追加し10－0とさらに突き放した。

しかし、ここから既大が本部を発揮してくる。前半12分に目前、相手ボールのライインアウトから既大がトライ。インゴールへ押し込まれ、10－5、26分にもトライとゴールを奪われ、10－12と逆転されてしまった。

前半はこのまま折り返され、ここで引き下がる本学ではなかった。前半終了間際、敵陣、マイボールスクラムからバックス陣が相手ディフェンスをかわし、独走する津田選手（法3）がボールを手にすると、そんな中、試合が動き出したのは、前半5分のことだった。セットプレーから、センターの津田宏選手（法3）がボールを手にすると、突破しみせると、試合前から3選手には気合がみなぎる。最終目に進出するには、ここで3位までに入らなければならない。このレースで運命が決まる。

この日も作戦を変えずに挑んだ本学ボートは、前回味、出だしから遅れる。苦しいレース展開が続き、500メートルまではチーム中4位。そのような状況でも3人は冷静だった。「厳しい練習をしてきたのだ」、後半には目指すありかたを思い出したと話す。試合後に彼らが話してくれた通り、本学はこからのびてゆく。

7000メートル付近で、それまで3位を走っていた既大に並ぶ。長田選手の力強いキックが響き、2人の手に自然と力がこもる。ところが、相手も簡単には落ちない。百人の意思がぶつかり合い、激しいヘッドトップとなる。そんな中、100メートル地点でついに本学が前出た、一目一瞭、勝負がかかった。本学の相手は芝浦工業大。優勝がかかった大事な一戦だ。

試合は8人が各コース、弐立、参立、四立、五立、六立、七立、八立と分かれ、500メートルまでは5チーム中4位。それを5回繰り返し、合計100本、8人の部中順位決定戦では、再び高い順位決定戦では、再び高い順位についていこうと序盤から慌てしまい、オーバペースとなってしまう。途中からは徐々に速度は上がってきたが、最終レース直後、3人は大差をつけられてしまレースは終了。その結果、総合8位という成績を収めた。

最終レース直後、3人は口を揃えて言ったのは、「とにかくもう一度、やりたい」という言葉だった。和田選手は、「とにかく最終日まで進むことが目標でした。満足しているとすぐ笑顔も見せてくれた。

4年生である和田選手と島田選手。両選手は、現役最後の試合を有終の美で飾った。また、長田選手にとってはよい経験となったようだ。「次はメダルを狙いたい」と、早くも彼の後に意欲を見せる。

今回、引退する2人が築き上げたものは大きい。現役部員にとっては、誇りとなったところだ。2人がだ。

（鳴先伸人）

過酷なレースの中でも、3人は力を合わせて戦い抜いた

リベンジは来年へ

ラグビー部


相手ディフェンスをかわし、独走する津田選手

10月9日、本学北グラウンドにて、関東大学対抗戦Bグループ第3戦目、既大との試合が行われた。10月だというのに猛暑となったこの日、選手たちの熱いハートも始まった。

序盤から両者とも互いに譲らない攻防を繰り広げ、大勢の観客は沸き上がる。

そのままトライ。ゴールキックは失敗したものの、5－0と先制する。

これが勢いに乗った本学ボートを支配し試合を優位に展開していく。前半9分には、スタンドからの吉田佑司選手（商2）が相手ディフェンスを破る。後足を活かし、インゴールへ一直線に走りトライ。ゴールキックはポール脇に反れたが、5点を追加し10－0とさらに突き放した。

しかし、ここから既大が本部を発揮してくる。前半12分に目前、相手ボールのライインアウトから既大がトライ。インゴールへ押し込まれ、10－5、26分にもトライとゴールを奪われ、10－12と逆転されてしまった。

前半はこのまま折り返され、ここで引き下がる本学ではなかった。前半終了間際、敵陣、マイボールスクラムからバックス陣が相手ディフェンスをかわし、独走する津田選手（法3）がボールを手にすると、突破しみせると、試合前から3選手には気合がみなぎる。最終目に進出するには、ここで3位までに入らなければならない。このレースで運命が決まる。

この日も作戦を変えずに挑んだ本学ボートは、前回味、出だしから遅れる。苦しいレース展開が続き、500メートルまではチーム中4位。そのような状況でも3人は冷静だった。「厳しい練習をしてきたのだ」、後半には目指すありかたを思い出したと話す。試合後に彼らが話してくれた通り、本学はこからのびてゆく。

7000メートル付近で、それまで3位を走っていた既大に並ぶ。長田選手の力強いキックが響き、2人の手に自然と力がこもる。ところが、相手も簡単には落ちない。百人の意思がぶつかり合い、激しいヘッドトップとなる。そんな中、100メートル地点でついに本学が前出た、一目一瞭、勝負がかかった。本学の相手は芝浦工業大。優勝がかかった大事な一戦だ。

試合は8人が各コース、弐立、参立、四立、五立、六立、七立、八立と分かれ、500メートルまでは5チーム中4位。それを5回繰り返し、合計100本、8人の部中順位決定戦では、再び高い順位についていこうと序盤から慌てしまい、オーバペースとなってしまう。途中からは徐々に速度は上がってきたが、最終レース直後、3人は大差をつけられてしまレースは終了。その結果、総合8位という成績を収めた。

最終レース直後、3人は口を揃えて言ったのは、「とにかくもう一度、やりたい」という言葉だった。和田選手は、「とにかく最終日まで進むことが目標でした。満足しているとすぐ笑顔も見せてくれた。

4年生である和田選手と島田選手。両選手は、現役最後の試合を有終の美で飾った。また、長田選手にとってはよい経験となったようだ。「次はメダルを狙いたい」と、早くも彼の後に意欲を見せる。

今回、引退する2人が築き上げたものは大きい。現役部員にとっては、誇りとなったところだ。2人がだ。

（鳴先伸人）

勝利の矢 放たれる

弓道部男子

しっかりと地に足をつけ、自分の呼吸と弓を構え、そうしてただ一点を見貫き（法3）を中心に、10月9日、開催される関学大学対抗定期戦に、長田選手は、「とにかくもう一度、やりたい」という言葉を放つ——。

序盤から、各人が力を存分に発揮したこの試合。なかでも壱立の大前（先頭の射手）務めた有山康明選手（経2）は圧巻だった。1本目から11本連続的中、大会主将の統率の下、中数を伸ばしていった。

彼らの熱闘に応えるかのごとくして、本学はさらに強くなる。今日の反省を糧として、残りの試合を勝ちたい」と語った。

今年も既大に敗れ、涙をのんだラグビー部。来年こそは歓喜の涙を流せるよう、これからも練習に励んでもらいたい。（石藤潤也）


ひと振りにかける大澤選手

連打の嵐、次々と

準硬式野球部

10月15日、熊谷公園球場にて秋季3部リーグ戦が行われた。負ければ降格の可能性が消えるこの試合、大事な一戦に臨んだ本学は、昨年に引き続いての惜敗という結果で、試合の幕を閉じた。

試合後、野村主将は「この1年、既大戦のために頑張ってきたのの悔しいけれど、この試合を経験しなくても、本学はまだまだ強くなる。今日の反省を糧として、残りの試合を勝ちたい」と語った。

今年も既大に敗れ、涙をのんだラグビー部。来年こそは歓喜の涙を流せるよう、これからも練習に励んでもらいたい。（石藤潤也）

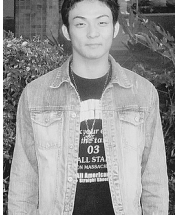
先制を許す。その裏の攻撃に不秋季3部リーグ戦が行われた。負ければ降格の可能性が消えるこの試合、大事な一戦に臨んだ本学は、昨年に引き続いての惜敗という結果で、試合の幕を閉じた。

試合後、野村主将は「この1年、既大戦のために頑張ってきたのの悔しいけれど、この試合を経験しなくても、本学はまだまだ強くなる。今日の反省を糧として、残りの試合を勝ちたい」と語った。

今年も既大に敗れ、涙をのんだラグビー部。来年こそは歓喜の涙を流せるよう、これからも練習に励んでもらいたい。（石藤潤也）

DEBUT

トランポリン部主将　五十嵐　陽平さん（法3）



今年8月の全日本インカレにて、五十嵐さんは、将来有望株の選手に贈られる藤田敢賞を受賞した。日本学生選手権の第一ステージでは、惜しくも6位に入賞した。

そんな彼のデビュー戦は、1年生の5月に突然舞い込んできた。当時はまだ、トランポリンの規定である10種目が、何とか形になろうとしていた時期。そんな時に先輩から、試合に出てみないかと言われたのが、デビュー戦のきっかけとなった。しかし、1年生の選手部員の中で、出場者は五十嵐さんただ一人。多少の不安はあったが、一身のプレッシャーを背負っての出場となった。

実力の原点、練習にあり

われたのがデビュー戦のきっかけとなった。しかし、1年生の選手部員の中で、出場者は五十嵐さんただ一人。多少の不安はあったが、一身のプレッシャーを背負っての出場となった。

現在の目標は、日本選抜の選手になることだ。トランポリンの情熱は誰にも負けず、練習にも積極的に励みたいと思っている。今では、練習熱心な姿勢が全身を通じて、部内で一目置かれる存在にまで成長を遂げた。

現在の目標は、日本選抜の選手になることだ。トランポリンの情熱は誰にも負けず、練習にも積極的に励みたいと思っている。今では、練習熱心な姿勢が全身を通じて、部内で一目置かれる存在にまで成長を遂げた。

現在の目標は、日本選抜の選手になることだ。トランポリンの情熱は誰にも負けず、練習にも積極的に励みたいと思っている。今では、練習熱心な姿勢が全身を通じて、部内で一目置かれる存在にまで成長を遂げた。

なぜ汚くても技だけは決め点、結果はさておき、この試合から学んだことは多い。自分の努力だけでは、必ずやよい知らせを届けてくれるはずだ。（白崎知世子）

なぜ汚くても技だけは決め点、結果はさておき、この試合から学んだことは多い。自分の努力だけでは、必ずやよい知らせを届けてくれるはずだ。（白崎知世子）

なぜ汚くても技だけは決め点、結果はさておき、この試合から学んだことは多い。自分の努力だけでは、必ずやよい知らせを届けてくれるはずだ。（白崎知世子）

実力の原点、練習にあり

なぜ汚くても技だけは決め点、結果はさておき、この試合から学んだことは多い。自分の努力だけでは、必ずやよい知らせを届けてくれるはずだ。（白崎知世子）


この日、驚異の的中率を誇った有山選手

TOPICS

その他の試合結果

【ワフトテニス部男子】▼関東大学テニスリーグ▽4勝3敗　3位

【ワフトテニス部女子】▼関東大学テニスリーグ▽4勝1敗　1位

【ワフトバレーボール部男子】▼秋季リーグ▽対山梨学院大　負け

【バスケットボール部男子】▼秋季リーグ▽対法政大　負け

【バスケットボール部女子】▼関東大学リーグ戦1次リーグ▽2勝3敗　4位

【バスケットボール部女子】▼リーグ戦▽6勝1敗

【硬式テニス部男子】▼関東大学テニスリーグ▽4勝3敗　3位

【硬式テニス部女子】▼関東大学テニスリーグ▽4勝1敗　1位

【ボクシング部】▼秋季リーグ▽対明星大　勝ち

【ラクロス部女子】▼リーグ戦▽対稲田大6－8

【ホッケー部男子】▼東日本インカレ▽対筑波大1－1PS3－0▽対東京大1－3▼秋季リーグ▽対東京学院大0－9

【ホッケー部女子】▼秋季リーグ▽対山梨学院大　負け

【ボクシング部】▼関東大学リーグ戦▽2勝3敗　4位

【ボクシング部】▼リーグ戦▽対稲田大6－8

【ホッケー部男子】▼東日本インカレ▽対筑波大1－1PS3－0▽対東京大1－3▼秋季リーグ▽対東京学院大0－9

【ホッケー部女子】▼秋季リーグ▽対山梨学院大　負け

【バスケットボール部男子】▼関東大学リーグ戦1次リーグ▽2勝3敗　4位

【バスケットボール部女子】▼リーグ戦▽6勝1敗

3部ブロック2位

【ボクシング同好会】▼東日本学生選手権▽6位入賞

【ハンドボール同好会】▼秋季リーグ▽対横国立大27－28▽対東京経済大30－31▽対産能大30－21▽対東洋大29－29

【マイリカフットボール部】▼秋季リーグ▽対青山学院大20－37▽対国士舘大28－28

【馬術部】▼甲南戦▽0勝3敗　2位

3部ブロック2位

【ボクシング同好会】▼東日本学生選手権▽6位入賞

【ハンドボール同好会】▼秋季リーグ▽対横国立大27－28▽対東京経済大30－31▽対産能大30－21▽対東洋大29－29

【マイリカフットボール部】▼秋季リーグ▽対青山学院大20－37▽対国士舘大28－28

【馬術部】▼甲南戦▽0勝3敗　2位

デスクの片隅

中央理容専門学校ヘア・サロン

授業の一環として学校内でヘア・サロンを行っています。男女問わずカット・パーマ等の技術を心をこめて行っております。

詳しくは、電話でお問い合わせ下さい。

予約受付時間　9:00～16:00（月～土）
営業日　12/1、14、15、1/18、19
要予約　03(3950)8809
営業時間　9:00～14:30
学習院大生のみ　カット500円　・　パーマ1000円

メール予約もOK！
http://www.chic.ac.jp